

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for perianal Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	P C Q 13-1	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID	12206637	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Oncol (R Coll Radiol)	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号		
	ページ	272-84	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Brown RS	Middlesex 病院
その他著者 1		Lankester KJ	同上
その他著者 2		McCormack M	同上
その他著者 3		Power DA	同上
その他著者 4		Spittle MF	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門周囲原発 Paget 病の放射線療法の役割を検討する		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	Middlesex 病院		
	対象者	肛門周囲原発 Paget 病 6 例 年齢：63～86 歳 癌の合併：4 例 レビュー（1966 年～2001 年までの英語で書かれた論文）		
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず（1）		
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず（3）		
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず（5）		
	介入（要因曝露）	放射線療法前の治療 局所切除、5FU クリームなど 放射線療法 5 例は根治的放射線療法（36～50 Gy）、1 例は姑息的放射線療法 4 例は化学療法同時併用放射線療法（浸潤癌であったため）		
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分	
		1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他（3）
		2	生存	1.主要 2.副次 3.その他（3）
		3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
		4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
		5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）	
主な結果	無病生存 2 例、有病生存（肛門周囲再発）1 例、他病死 2 例、不明 1 例（Table 1） レビュー： 5 年生存率：35%（初期治療としての放射線療法）、74%（手術後の再発例に対する放射線療法）。20%（浸潤癌）、94%（非浸潤癌）。 無増悪生存 15%（癌が併存している症例）。			
結論	放射線療法はこれまで本疾患には有効でないとされてきたが、有用性はある。			

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	臨床データはわずか 6 例のみであるが、他の論文のレビューを詳細に検討している。(Table 2, 3、Figure 1-4)。症例集積研究とも考えられるが、詳細に検討されていること、本症の報告が少ないことを勘案して、後ろ向きコホート研究に準じるものと評価した。